

飛行場予報

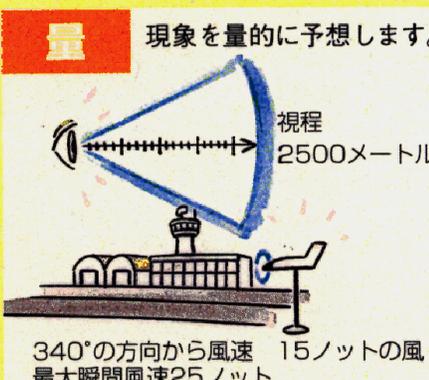
主要な空港の気象台などでは、空港の気象状態をきめ細かに予想し、航空機の運航形態に合わせて飛行場予報を発表しています。

飛行場予報は、出発前に飛行計画を作成する時や、飛行中に到着予定時刻に目的飛行場がどういう気象状態になっているのかを把握するために利用されています。

飛行場予報には、次のような特徴があります。

1. 予報する範囲が飛行場を中心に半径約9kmに限定されています。
2. 風の変化や視程、雲の高さ、着氷、雷電、霧といった離着陸に影響を及ぼす大気現象について予報します。
3. 「××時から、風は南から北西に変わる」というように時間的に細かに現象の発生、変化を予報します。
4. 「視程は メートル」というように現象を具体的な数値で量的に予想します。

飛行場予報の特徴

区域  <p>半径9km</p> <p>飛行場周辺という限られた区域について予想します。</p>	現象  <p>雲 (形、量、高さ)</p> <p>視程</p> <p>風</p> <p>雲の高さ、風、視程といった航空機の運航に影響を及ぼす現象を予想します。</p>
時間  <p>ズバリ!</p> <p>時間的に細かに現象を予想します。</p> <p>09時以降に風向きが変わる!</p>	量  <p>現象を量的に予想します。</p> <p>視程 2500メートル</p> <p>340°の方向から風速 15ノットの風 最大瞬間風速25ノット</p>